

同窓会誌 73

特集

教育学部同窓会が
歩んだ70年

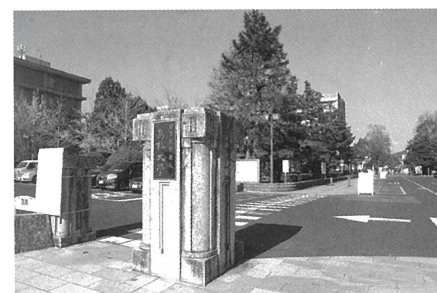
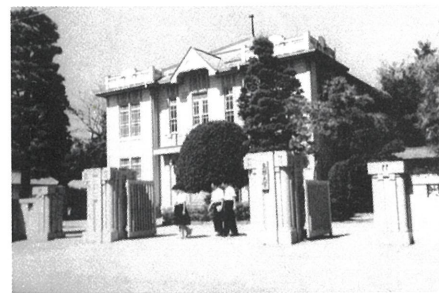
70周年記念座談会

「同窓会及び同窓会誌70年の役割と
今後の展望」

島根大学教育学部同窓会



島根大学正門（昭和34年）



島根大学正門（現在）



教育学部正面玄関（現在）

令和3年度と同窓会の活動

同窓会設立70周年記念座談会



9月25日に「同窓会及び同窓会誌70年の役割と今後の展望」と題して、島根大学教育学部カンファレンスルームで記念座談会を行った。
この内容は、P11～の特集で紹介しています。

やって来ました！先輩先生

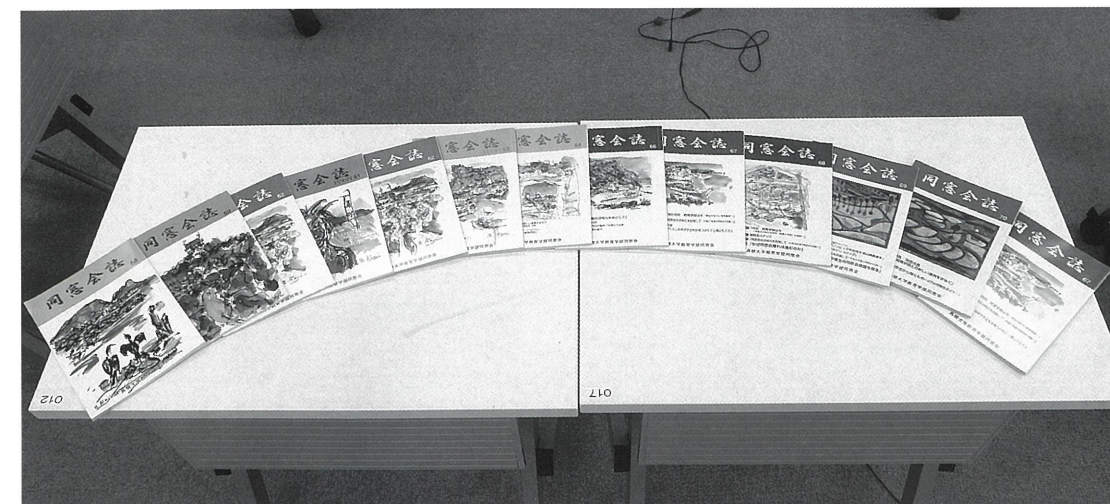


11月18日、特別支援教育の主副専攻生18名に坂根千歳先生（元松江養護学校長）が講義した。

教育振興奨励賞授与式



激励金贈呈式



これまでのA5版の同窓会誌

同窓会誌のA4版への変更について

今回、島根大学教育学部同窓会設立70周年記念を節目として、同窓会誌73号から本の体裁をA5版からA4版へと新しく改版して出版することとしました。同窓会誌創刊以来、長きにわたってA5版という手軽なサイズに慣れ親しまれていた方もいらつしやるのは十分承知しています。

しかし、「紙面が小さく文字も小さいので読みづらい」、「掲載されている写真が小さくて、顔や景色が分かりづらい」「もう少し版が大きくならないものだろうか」という意見も寄せられました。

そこで、記念特集号を契機として、その紙面を拡大して、文字も大きく、写真も大きく多く掲載し、読みやすく、見やすい紙面に刷新いたしました。

また、表紙につきましても島根大学教育学部同窓会に関わる写真を載せることといたしました。

今回の表紙は秋空に向かって立つ島根大学教育学部棟です。また、裏表紙は、上二つの写真が昭和34年当時の島根大学正門、下二つが現在の島根大学正門と教育学部正面玄関です。

そして、今まで長年にわたり多くの学部の先生や同窓生による絵画を同窓会誌の表紙絵として楽しませてもらいました。同窓会誌の顔といってもいい表紙を丹精込めて描いてくださいました皆様に紙面をもつて感謝いたします。

今後は同窓生の皆さんの学生時代の良さや懐かしさを紹介するとともに、現代社会の流れや時代の移り変わりを鋭敏に映し出す同窓会誌へと少しずつ変えていきたいと思えます。まさに温故知新の心意気で今後の同窓会誌編集に取り組みますので、皆様方のご意見をお寄せいただければ幸いです。

（小豆澤 美博 記）

目次

INDEX

カラーグラビア① 令和3年度の同窓会の活動

カラーグラビア② 教育学部同窓会「激励金」贈呈 原田奈央さん・菜月さん

同窓会設立70周年に思う

教育学部同窓会会長 有馬毅一郎 (2)

特集 教育学部同窓会が歩んだ70年 (4)

I 教育学部同窓会70年のあゆみ（年表） (5)

II 70周年記念座談会 (11)
「同窓会及び同窓会誌70年の役割と今後の展望」

III 寄稿 同窓会70周年に寄せて (21)
「未曾有の新型コロナウイルス感染禍の下で」
同窓会東京支部長 嶋 治行

教職回顧 (24)

第10回教育振興奨励賞に川路澄人氏決定 (26)

活躍する教育学部生 原田姉妹に激励金贈呈 (27)

専攻だよりー研究室はいまー (28)

- ・令和2年度島根大学教育学部卒業研究題目一覧
- ・令和2年度島根大学大学院教育学研究科研究成果報告書・修士論文題目一覧

教育学部卒業生の近年の進路は？ (40)

本部だより (42)

島根大学教育学部同窓会規約 (44)

同窓会個人情報の保護に関する規程 (46)

令和2年度決算書 (48)

令和3年度会費納入状況 (50)

令和3年度予算書 (51)

令和3年度本部役員 (52)

受贈図書紹介 (23) (53)

終身会員・個人会員 (54) 編集後記

おことわり

昨年より新型コロナウイルス感染症が全国に拡がり、現在も様々な活動を制限せざるを得ない状況です。このため一昨年度まで毎号掲載しておりました「私の研究紹介」、「支部からの声」、「ただいま活躍中!!」、「有志会・同期生会だより」は、今年度も掲載しないこととしました。

【表紙写真】 表：現在の教育学部棟
裏：昭和34年の大学正門、現在の大学正門と教育学部正面玄関

カラーグラビア②

活躍する教育学部生

原田奈央さん・原田菜月さん姉妹に教育学部同窓会「激励金」贈呈



基礎体験活動、教員採用試験対策セミナーをはじめ様々な活動に積極的に参加。幅広い視野をもって高いレベルで学修を進めた。

令和4年度島根県教員採用試験に揃って合格

来年度は教職大学院に進学予定

島根県出雲市伊野地区出身 双子姉妹

奈央さん＝写真左
(自然環境教育専攻4年)

菜月さん＝写真右
(数理基礎教育専攻4年)

子どもの目線に立って同じ方向を向いて頑張る教員になりたい。

目指す教師像は？

子どものことがよく見える教員に。子どものことをよく見て、一緒に頑張れる教員は素敵。

授業デザイン力をつけること。島根県の教育課題や実際の現場の声を聞きながら議論できる機会はとても貴重。

教職大学院で何を学ぶ？

専門的な知識を深め、授業実践力をつけたい。また、コミュニケーション能力や子どもを見る目を高めていきたい。



ミシガンでの海外研修 現地の生徒と



バージニアでの海外研修 現地の大学生と



「伊野バージョン」で中学生と話し合い



親子にクイズ！

今後一層の飛躍を！

双子姉妹として、切磋琢磨し互いに高め合ってきた2人。高い志をもって県内中学校で教壇に立つ日を楽しみにしたい。



同窓会設立70周年に思う

教育学部同窓会会長 有馬 毅一郎

私たちの同窓会が設立70周年の節目を迎えたこと、お互いに大事にしたいと思います。

終戦直後、私たちの母校が新制国立大学としてスタートしたのが昭和二十四（一九四九）年。同窓会が設立されたのが翌々二十六年。「同窓会誌」創刊号は、二十七年の発刊でした。

この度、「同窓会誌」の創刊号以降に目を通すなど、改めて「同窓会」を見つめ直してみました。

一、創設期をふりかえって

- ・新制国立大学発足の勢いの中で、
- ・大学運営支援に期待される組織として、
- ・大学教官が中心になって同窓会運営を引っ張る。

終戦に伴い民主主義による国家の再建がめざされ、必然的に学制改革の一環として島根大学教育学部も誕生します。同時に戦前の島根師範、女子師範、青年師範の三校は廃校となり、同窓会も「教育学部同窓会」として発展的に統合されたのです。

当時の状況は、新制の国立大学の設置という希望と期待に燃えた中にありましたが、一方で国家財政の軟弱な中で、設置施設設備や人材等の

地元準備に大変な苦悩があったのです。

当初の同窓会規約の「目的」には、「島根大学教育学部の発展並びに本県教育の振興に寄与すること」とあり、同窓会が母校支援や島根県教育への寄与を現在以上に強く位置づけていたことがわかります。

これらの目的達成のために、学部長をはじめ大学教官が積極的に同窓会自体を運営されています。言わば、大学と同窓会が一体的に動いていて、大学にとっても同窓会は強く期待される存在でもあったことがわかります。

「同窓会誌」の紙面の骨格部分は大学の先生の寄稿が中心を占めていますし、それらに、支部の組織強化や活動振興にも力を入れた報告がなされています。

二、同窓会が隆盛だった頃

- ・国の経済成長と共に大学・学部も拡充、
- ・大学の施設・設備充実が寄与する、
- ・県内教育振興のための文化・教育活動も。

代は常態化し、さらに悪化も進みます。

「会員の減少」は、戦後設立された多くの任意加入の組織・団体が共通して立ち到った課題です。そして、平成時代を通して多くが衰退を余儀無くされます。同窓会も同様の激流の中にあると言えます。

四、新しい同窓会像を求めて……再興への道

- ・70年の歩みの上に立つて、
- ・新しい感覚で、今「同窓会」とは、
- ・母校と共に、「教育」「人間関係」重視で。

当同窓会が誇った「全国でも稀にみる固い組織」は、現在でも県内中心に生きております。会員の根強い同窓意識も、先のコロナ禍の困窮学生支援募金に強く現われました。

近年は、現下の課題対策を内部でも繰り返して協議検討を続けて来ています。70周年を機に、さらに新しい感覚による展開を実行に移さねばと考えています。

教育学部同窓会は「教育」を軸に、人間の心の繋がりを重視の上に立つことに存在意義があります。

今や同窓会も安泰を許さずです。

卒業・修了の皆様の一層の理解と協力を期待して止みません。

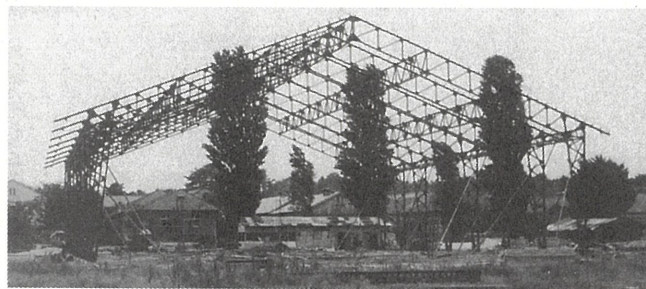


同期生会の1コマ（「同窓会誌」第70号より）

教育学部の中原から川津への移転、新学舎の整備、その上に「高等教員養成課程」を招致するために、地元で挙一致の教育学部期成同盟会が動き、同窓会も大きな働きをしたという初期のエピソードはよく知られています。

その後、教育学部も次々新しい課程を追加設置する時代を迎え、言わば昭和時代は教育学部も充実発展を遂げます。

この期間には、同窓会も多くの大きな事業実績を残します。大学の体育館建設をはじめ学生会館及び附属小学校新築の設備充実費等々です。また、毎年県下で全国的な著名人による講演会等、文化・教育活動を続けます。（『文化講演集』も出版）時代と共に教育学部の卒業生が県下に累積し、会員の増加も進んで、同窓会は多くの実績を重ねる隆盛期を迎えます。



国道沿いの体育館建設中

三、同窓会がぶち当たった様々な壁

- ・人口（子供）の減少、教員養成数の削減、
- ・卒業生の県外分散、入会者数の減少、
- ・卒業生（情報）把握の困難、「組織離れ」。

同窓会誌上では、早くから「人口減少に伴って小中校の統合と教員定数減が重なって、教員採用が極端な狭き門となり、新卒の三分の二は県外へ就職……」「卒業時に半数が入会しないまま全国に散り去って、連絡もつきかねるという事態……」等の問題点が報告されていますが、平成時

教育学部同窓会が歩んだ70年

島根大学教育学部同窓会が設立されたのは、昭和二十六（一九五二）年。今年は70周年を迎えた。

同窓会設立からの昭和時代は、教育学部の充実発展にあわせて、同窓会が数多くの大きな事業を行った隆盛期であった。平成時代以降、教員養成数の削減に伴う同窓会入会者の減少や「組織離れ」等による様々な課題に直面する時期となっている。

そうした中であっても、先のコロナ禍における困窮学生支援募金には多くの寄付が寄せられ、会員の根強い同窓意識は今も健在であることを強く感じさせられた。

巻頭の「同窓会設立70周年に思う」で示された有馬会長の「教育学部同窓会は『教育』を軸に、人間の心の繋がりを重視の上に立つことに存在意義があります。」との言葉を受けながら、新たな同窓会の在り方を探っていかなければならない。

今回の特集では、70年の歩みを年表で振り返り、歴代役員による座談会、長らく支部活動の活性化に取り組んできた東京支部からの寄稿を通して、令和時代の同窓会活動の在り方を考える機会としたい。

70周年記念特集の内容

- 教育学部同窓会70年のあゆみ（年表）……………（5）
- 70周年記念座談会……………（11）
- 「同窓会及び同窓会誌70年の役割と今後の展望」
- 寄稿 同窓会70周年に寄せて（東京支部）……………（21）
- 「未曾有の新型コロナウイルス感染禍の下で」

教育学部同窓会70年のあゆみ（年表）

太字で記載している事項について脚注を加えた

S 26 (1951)	3	島根大学教育学部同窓会結成
	7	島根師範・島根女子師範・島根青年師範・島根大学教育学部各同窓会合同発起者大会開催
	9	同窓会合同に賛同を求める文書を全会員に発送
	8	第一回評議員会開催 同窓会規約承認・役員選出
		勝部謙造氏を初代会長に選出
	10	島根大学教育学部同窓会合同記念教育振興石見部大会（於・浜田二中）
		文化講演・小滝彬氏
S 27 (1952)	6	文化講演・玖村俊雄氏、小滝彬氏
		「同窓会誌」創刊号発行（特集「創立記念教育振興大会」）
S 28 (1953)	10	平田植物園復興に女子師範同窓生（平田氏）より一二万円寄付
S 29 (1954)	4	教育学部特音課程開設にあたり楽器充実のため会員より募金を募る
	10	「同窓会名簿」発行（以後三年毎に発行）
S 30 (1955)	5	馬場愀輔氏を第二代会長に選出（勝部前会長ご退任による）



第2代 馬場愀輔氏



初代会長 勝部謙造氏

同窓会規約

同窓会設立当初の会の目的に①会員の連絡・親睦、②教育学部の振興・充実、③教育・文化振興の三点をあげている。③を設けているところがユニークで、戦後の荒廃から立ち直り、文化の国へ雄飛する一翼を担おうとした設立当初の意気があらわれている。

文化講演会



文化講演会での湯川秀樹氏
昭和46. 6. 5（於・附中）

総会にあわせて各界を代表する識者を招いて公開講演会を開くことを昭和26年の設立当初から継続して行ってきた。これまでに五十名を超える講師を招いた。同窓会の果たしてきた誇るべき「社会貢献」事業である。その内容は昭和60年刊行の『文化講演集』にまとめられている。近年は自治体や各種団体による文化的企画が盛んになってきたことや、教育現場の多忙化もあって同窓会の事業としては休止されている。

同窓会誌

会員相互の情報連絡、親睦交歓と事業推進の核となるメディアとして年一回発行している（年二回発行した年もあった）。巻頭言や文化講演会要旨のほか、主として教育問題を中心に、それぞれの時代の状況を反映した主題



- S 31 (1956) 7 松本博氏を第三代会長に選出(馬場前会長)逝去による)
- S 33 (1958) 6 島根大学開学10周年記念体育館建設期成同盟会結成、同窓会の募金活動を行う
- S 34 (1959) 11 右記念体育館落成式
- S 35 (1960) 5 同窓会設立10周年記念大会(於島根大学体育館)
- S 37 (1962) 5 役員総会に於いて、島根大学学生会館及び附属小学校新築の設備充実費として会員各自五十円を拠出することを決議
- S 39 (1964) 2 拠出寄付金のうちから衝立(六万円)を附属小学校竣工記念として寄付
- S 40 (1965) 島根大学学生会館備品としてスタンド式扇風機一台を寄付
- S 41 (1966) 6 同窓会設立15周年記念大会(於附属小学校)
- S 43 (1968) 7 「同窓会誌」18号に「同窓会発足15周年記念論文『島根教育の課題』」入選論文を掲載
- S 44 (1969) 2 役員総会に於いて各期代表を委嘱
- S 46 (1971) 12 学園紛争始まる。(八月四日に終息)
- S 45 (1970) 7 「同窓会誌」21号に特集
- S 47 (1972) 11 島根大学長、島根大学教育学部長宛に紛争の早期解決を求める要望書を提出
- S 48 (1973) 5 第一回各期代表者会
- S 49 (1974) 同窓会設立20周年記念準備会発足
- S 50 (1975) 7 同窓会設立20周年記念総会(於附属中学校)
- S 51 (1976) 5 「同窓会誌」23号発行(同窓会設立20周年記念特集)



第3代 松本博氏



開学10周年記念体育館建設現場

について特集を組んできた。同窓会誌に盛り込まれた記事内容は「戦後の島根教育の歴史そのもの」(島田氏)「会員が綴る島根の教育史」(田中氏)といっても過言ではない。

平田植物園
旧島根県女子師範学校の平田教諭によって整備された植物園。現在は同校の跡地を受け継ぐ島根県立出雲高等学校で管理されている。(同校には、島根県女子師範学校跡の碑がある)

同窓会の募金活動
母校の振興・充実に尽くすことは同窓会の重要な活動であり、これまでの主要な募金額を整理すると次のようである。開学10周年記念事業Ⅱ「開学10周年記念体育館建設期成同盟会」を結成して募金活動に当たった。一、八四〇余万円が寄せられ、体育館建設の費用に充てられた。開学30周年記念事業Ⅱ年会費に二〇〇円を加算して送金願うよう会員に依頼し、八五万六、七〇〇円の寄付金が寄せられた。開学50周年記念事業Ⅱ四学部の各同窓会、後援会その他島根県内の経済団体も加わって「開学50周年記念事業後援会」が組織され、募金活動趣意書によって募金が行われた。本同窓会員からは四九二万円が寄せられた。

記念論文
設立15周年を期して「島根教育の課題」というテーマで会員から論文を募集し、入選論文を会誌に掲載した。

学園紛争
昭和40年代初頭は全国の大学に学園紛争が吹き荒れた時代であった。島

- S 48 (1973) 5 規約改正。副会長の次に「理事長」を加え、島田雅治氏を理事長に選任
- S 50 (1975) 7 「島根県師範学校跡の碑」建立(現松江一中)
- S 51 (1976) 5 「同窓会名簿」第10号発行。これより横書きとなる。
- S 53 (1978) 8 金山千氏を第四代会長に選出(松本前会長)逝去による)
- S 54 (1979) 10 「同窓会名簿」第11号発行(勤務地の他に住所・電話番号を入れる)
- S 55 (1980) 8 「島根青年師範学校跡の碑」建立(現出雲二中)
- S 56 (1981) 10 「島根大学開学30周年記念事業後援会」設立
- S 57 (1982) 11 「島根県師範学校女子部跡の碑」建立(現浜田合庁)
- S 58 (1983) 11 「島根県女子師範学校跡の碑」建立(現出雲高校)
- S 59 (1984) 9 「財団法人島根教育文化国際交流基金」設立
- S 60 (1985) 11 役員総会にて右基金募金について協議
- S 61 (1986) 2 同窓会設立30周年記念事業の一環として『文化講演集』発行
- S 62 (1987) 5 島田雅治氏を第五代会長に選出(金山前会長)勇退による)、田中瑩一氏を理事長に選任(島田氏の後任)
- S 63 (1988) 12 石野眞氏を理事長に選任(田中氏の後任)
- S 64 (1989) 6 「同窓会名簿」第17号発行(今号より株式会社サラトに委託)
- S 65 (1990) 6 有馬毅一郎氏を理事長に選任(石野氏の後任)



第4代 金山千氏



島根県師範学校跡 同校歌の碑
(現・松江一中)



島根青年師範学校跡の碑
(現・出雲二中)

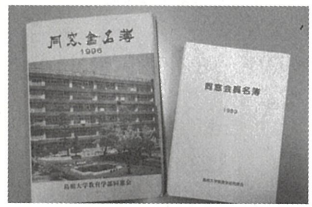


島根県師範学校女子部跡の碑
(現・浜田合同庁舎)

前身校跡の碑
教育学部前身校のあと地に記念の碑を建設した。

根大学ではこの日県警本部の鑑識車が学内に入ったことをきっかけに紛争が起った。セクトと呼ばれた運動の各グループが相互に対立し、集会やデモを通してそれぞれの立場を主張し争った。約半年間授業ができなかった。

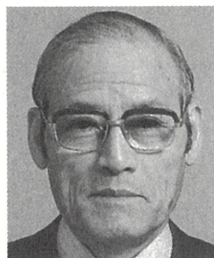
教育学部同窓会名簿
昭和29年に「同窓会名簿」第一号をB5版で創刊以来、3年ごとに発刊した。平成8年第17号より株式会社サラトに委託し、これより現在までA版で4年ごとに発刊している。名簿の他、キャンペーンの今昔、同窓会誌の歩みと思い出などの写真も掲載。直近では2020年に発刊。



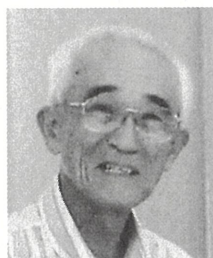
同窓会名簿(1996年版と1993年版)

ホームページ
島根大学五学部のそれぞれの同窓会の緩やかな連合組織として「島根大

- H11 (1999) 1 「同窓会誌」第50号発行 (第50号記念特集)
教育学部創立50周年記念式典 (演奏・講演)
- H12 (2000) 2 「同窓会誌」第51号発行 (教育学部創設50周年記念特集)
全 祝賀会 (於ワシントンホテル)
- H13 (2001) 6 同窓会設立50周年記念祝賀会 (於サンラボ)
- H14 (2002) 3 「同窓会誌」第53号発行 (同窓会設立50周年特集)
- H15 (2003) 6 久保田康毅氏を理事長に選任 (有馬氏の後任)
同窓会総会で講演と三味線ライブを開催 (文化講演形式を取らない初めての試み)
- H16 (2004) 6 齋藤重徳氏を理事長に選任 (久保田氏の後任)
- H17 (2005) 12 島根大学同窓会連合会設立
- H18 (2006) 7 島根大学同窓会連合会・教育学部同窓会ホームページ開設
- H19 (2007) 10 島根大学同窓会連合会第一回ホームカミングデー開催
- H20 (2008) 6 田中瑩一氏を第六代会長に選出 (島田前会長ご勇退による)
- H21 (2009) 6 第二回ホームカミングデーにあわせて教育学部同窓会企画・パネルディスカッション「今求められ



第5代 島田雅治氏



第6代 田中瑩一氏

- 学同窓会連合会」が組織されたのを機に同窓会のホームページが開設された。
- 島根大学のトップページ (<http://www.shimane-u.ac.jp/>) から「卒業生の皆様」↓「教育学部同窓会」へ。
- ホームカミングデー**
島根大学同窓会連合会主催のホームカミングデーを大学祭 (概ね十月第一週) にあわせて開催、大学ホールでの卒業生歓迎式典、講演会、演奏会などの各学部同窓会の企画行事が行われた。音楽界で活躍中の卒業生が母校に帰って演奏を披露するのが定番となっている。第十一回からは、各学部毎の開催となっているが、令和二年と三年は、新型コロナウイルス感染予防のため、開催を見送った。
- パネルディスカッション**
卒業生・院生・学生相互の意見交流の場として、ホームカミングデーの教育学部企画にパネルディスカッションやラウンドテーブルを取り入れている。平成30年度のテーマは「地球を元気に！人をつなぎ、地域をつなぐことから生まれるローカルイノベーション」、令和元年度のテーマは「地域の力が人を育てる」新しい時代における多様な教育のあり方」であった。
- 卒業生・院生・学生相互の意見交流の場として、ホームカミングデーの教育学部企画にパネルディスカッションやラウンドテーブルを取り入れている。平成30年度のテーマは「地球を元気に！人をつなぎ、地域をつなぐことから生まれるローカルイノベーション」、令和元年度のテーマは「地域の力が人を育てる」新しい時代における多様な教育のあり方」であった。
- 学生のプレゼンテーション
平成21年6月13日
- 学生が発表している様子
- 卒業生・院生・学生相互の意見交流の場として、ホームカミングデーの教育学部企画にパネルディスカッションやラウンドテーブルを取り入れている。平成30年度のテーマは「地球を元気に！人をつなぎ、地域をつなぐことから生まれるローカルイノベーション」、令和元年度のテーマは「地域の力が人を育てる」新しい時代における多様な教育のあり方」であった。
- ホームカミングデーで歌唱する狩野麻美さん (ソプラノ)
平成22年10月8日
- ラウンドテーブル「『育ち』を支えるネットワーク」
平成21年10月3日

- H21 (2009) 6 役員会総会後に学生のプレゼンテーションを実施
テーマは「二〇〇〇時間体験学習修の実際」
- H22 (2010) 7 「同窓会誌」第61号発行 (教育学部創設60周年特集)
- H23 (2011) 10 第五回島根大学ホームカミングデーにあわせ、同窓会設立60周年記念企画「みんなで語ろう、同窓会の60年！」を実施
- H24 (2012) 1 「同窓会誌」第63号発行 (同窓会設立60周年記念特集)
- 有馬毅一郎氏を第七代会長に選出 (田中前会長ご勇退による)
- 12 同窓会の新企画として「同窓会教育振興奨励賞」事業を開始し、第一回教育振興奨励賞を福田哲之氏に授与
- H25 (2013) 6 同窓会広報紙「Leaf@同窓会」入会勧誘特別号を発行
- H26 (2014) 6 舟木賢治氏を理事長に選任 (齋藤氏の後任)
- 10 第8回ホームカミングデーにあわせて教育学部・同窓会共同企画シンポジウム「地域で活躍する教育学部の卒業生と現役生」を開催
- 11 島根大学法人化10周年記念寄付金贈呈。同窓会より教育学部生の海外留学等の支援のための寄付金十万円を小林学長に贈呈



第7代 有馬毅一郎氏

- 学生のプレゼンテーション**
同窓会は学生時代の記憶を共有するところに基礎を置いている。在学生は同窓会準会員という位置づけだが、卒業生との相互交流の場は十分でない。そこで役員総会終了後、学生生活の今を語ってもらう場を設けている。他に相互交流の場として就職準備のための模擬面接会場で同窓会員が面接官になってノウハウを提供する試みも行っている。
- 同窓会広報紙「Leaf@同窓会」**
年一回発行の同窓会誌とは別に、同窓会をより身近に感じてもらうために、「Leaf@同窓会」を創刊。同窓会でのトピックをA4版二つ折りのリーフレット形式で年二回発行。(九月定期号、一月特別号)

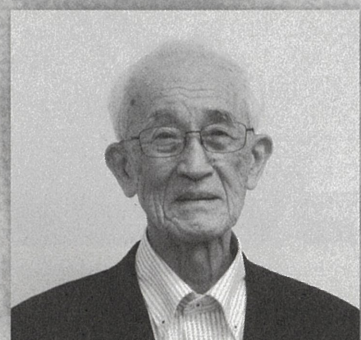
- 同窓会教育振興奨励賞**
同窓会として、教育学部の振興・発展を願い、教育学部教員の個人又は団体の研究及び実践に対し助成する制度を創設した。第一回受賞者は、言語文化教育講座国語教育コースの福田哲之氏に決定。
- 以下受賞者は次の通り。
- 第二回 (H25) 加藤寿朗氏 第三回 (H26) 河添達也氏
第四回 (H27) 廣兼志保氏 第五回 (H28) 宮崎紀雅氏
第六回 (H29) 原 丈貴氏 第七回 (H30) 作野広和氏
第八回 (R元) 藤井浩基氏 第九回 (R2) 縄田裕幸氏
第十回 (R3) 川路澄人氏



- 教職大学院設立等の支援のための寄付金**
島根大学法人化10周年記念にあわせ、教職大学院設立等の支援のために同窓会より百万円を小川教育学部長に贈呈した。その後教職大学院が設立され、島根・鳥取両県からの学生を受け入れている。

70周年記念 座談会

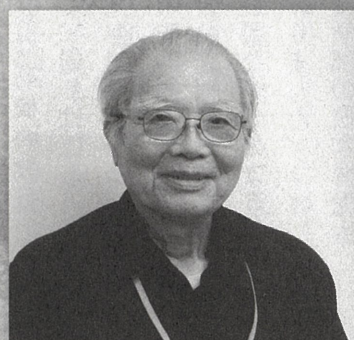
同窓会及び同窓会誌70年の
役割と今後の展望



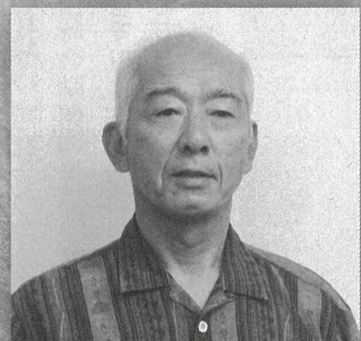
前会長 田中 瑩一



会長 有馬毅一郎



元編集委員長 長谷川英巳



副会長 齋藤 重徳
(前理事長)



副会長 恩田 元穂
(前編集委員長)



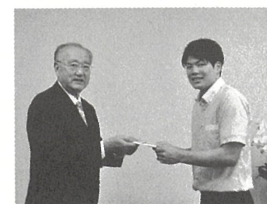
(同会) 理事長 原 広治

令和3年9月25日(土)
於 島根大学教育学部

- | | | |
|-------------|----|--|
| H 26 (2014) | 11 | 島根大学法人化10周年記念寄付金として、 教職大学院設立等の支援のための寄付金 百万円を小川学部長に贈呈 |
| H 27 (2015) | 6 | 同窓会個人情報保護に関する規定を制定 |
| H 28 (2016) | 6 | 原広治氏を理事長に選任(舟木氏の後任) |
| H 29 (2017) | 6 | 第一回 同窓会激励金 を須山晴貴選手(飛込み)に贈呈 |
| H 30 (2018) | 4 | ほっと一息カフェ スタート |
| R 元 (2019) | 6 | 第12回教育学部ホームカミングデーにおいて教育学部・同窓会共同企画「地域を元気に！人をつなぎ、地域をつなぐ」ことから生まれるローカルノベーション」を開催。昨年度より、大学全体開催から各学部での開催に変更。 |
| R 2 (2020) | 5 | 「こんにちは、先輩先生！」を初開催
新型コロナウイルス感染症に係る学部・学生支援 として、同窓会より五月に緊急支援として百万円、九月に同窓会会員から寄せられた募金百八十万円を加藤学部長に贈呈。
教育学部ホームカミングデーは、新型コロナウイルス感染症予防のため中止となる。 |
| R 4 (2022) | 11 | 「同窓会名簿二〇二〇」を発行
「 同窓会誌 」第73号発行(同窓会設立70周年記念特集) |

「同窓会激励金」制度を創設

目覚ましい活動をしている学生に対し、「同窓会激励金」制度を創設。これまで五名の学生に贈呈。第一回須山晴貴さん(水泳「飛込み」・健康・スポーツ教育専攻二年)第二回木原幸志郎さん(「春陽会」奨励賞受賞・美術教育専攻四年)第三回羽山歩里さん(島根大学開学70周年記念制定愛唱歌「すがしき風」の作曲を主導・音楽教育専攻四年)第四回原田奈央さん・原田菜月さん姉妹(幅広い視野で学修を進め成果をあげる。自然環境教育・数理基礎教育専攻四年)



ほっと一息カフェ

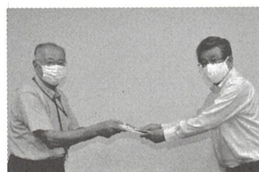
学生に、同窓会への関わりをもち同窓会への意識・関心をもってもらうことを願って、「ほっと一息カフェ」と称して、学生の皆さんと同窓会事務局メンバーとの交流を始めた。



同窓会事務局での交流
(ほっと一息カフェ)

新型コロナウイルス感染症に係る学部・学生支援のための寄附

令和二年度は、新型コロナウイルス感染症のため、四月から大学が休校となり、学生の生活にも大きな影響を及ぼした。コロナ禍において困窮する教育学部生の学びと生活を守るために五月に同窓会から教育学部への緊急寄附として一〇〇万円が贈呈された。また、六月から募金活動を行い、八月二十四日に、会員から集まった浄財一八〇万円が、有馬会長から加藤寿朗教育学部長に贈呈された。



「同窓会誌」第73号(70周年記念特集)発行

これまでのA5版からA4版に変更し、新たな同窓会誌としてリニューアルして発行した。

令和3年度 島根大学教育学部同窓会本部役員

会 長	有馬毅一郎（松江支部）	土居 達也（邑南支部）
副 会 長	加藤 寿朗（教育学部）	白石 隆子（松江支部）
	黒田 章義（松江支部）	齋藤 重徳（松江支部）
	恩田 元穂（松江支部）	
理 事 長	原 広治（教育学部）	常松 浩（附属学校園）
副理事長	福田 哲之（学部支部長）	大西 七恵（松江支部）
会計監事	瀧野 一夫（松江支部）	門脇 岳彦（県中学校代表）
理 事	仙田 浩志（県小学校代表）	岸本 強（県立大学・高専代表）
	佐藤 真司（県立学校・公立高等学校代表）	寺井 由美（松江支部長）
	和田 律央（附属支部長）	坂本 達夫（出雲支部長）
	春日 宏（安来支部長）	
	仙田 健治（浜田支部長）	山中 慎嗣（教育学部）
幹 事	上代 裕一（教育学部）	作野 広和（教育学部）
	福岡 敏之（教育学部）	大給 玲子（松江支部）
	長岡 美沙（教育学部）	坂根 千歳（松江支部）
	長 和博（松江支部）	小豆澤美博（会誌編集担当）
	河井 克典（会誌編集担当）	片山 博子（会誌編集担当）
	安達 卓生（会誌編集担当）	
事務局員	山田 幸子	

受贈図書紹介

園山哲也著『小さな旅日記3』

園山哲也さんは、本学教育学部保健体育専攻の一九六二（昭三十七）年卒業生。大学時代は体操部で活躍した。島根県の公立高校教員を二〇〇〇（平十二）年に退職し、その年と二〇一〇（平二十二）年に自分史を刊行、そして二〇二一（令三）年にここ十年を振り返って書かれた三冊目の自分史が本著となる。



本を開けば、まずは園山さんの描いた草木の絵やご自宅の庭の白モクレンやフジ花の写真が読者をお出迎え、続いて家族や友人たちの数々の写真、数々の笑顔が花々に負けぬくらいに咲き誇っている。本文は、第一章「私の歩み十年」にはじまり、「家族・親戚」「保育行政との出会い」「退職互助松江地区会」「体操とかかわって」「出会いの思い出」「俳句とエッセイ」「先輩わが友教え子たち」「私の略歴・主な仕事」と続く。

二〇一八（平三十）年度に山陰中央新報山陰文芸で入選した次の句は「俳句とエッセイ」の章に紹介されている。ご家族にとって園山さんは、この句の「山」のような存在かも知れない。

嬰兒（みどりご）を高だかと挙げ山笑う

そして「あとがき」には、二〇二一（令三）年が園山さんご夫妻の結婚五十五年（エメラルド婚）にあたり、本著の発行日を結婚記念日とされたことが記されてある。めでたしめでたし。

（編集委員 岩田 英作 記）

教育学部同窓会ホームページご案内

クリックしてね！

島根大学教育学部同窓会 ウェブ検索 これで検索！

島根大学教育学部同窓会

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060（教育学部棟内）
TEL：0852-32-6297
E-mail：e-dousoukai@edu.shimane-u.ac.jp

TOP
会長あいさつ
規約・個人情報
会費納入取り扱い内規
同窓会役員
事業計画
活動報告
総会報告
同窓会誌・同窓会広報誌
お知らせ
入会の方法
住所変更届
リンク

NEW 新着情報

- 【基金報告とお礼】（New!）
- 【新型コロナウイルスに係る学生支援のための基金のお礼】（New!）
- 【「会長メッセージ」を掲載しました】（New!）
- 【第1回「ごんには、先輩先生」を宴席しました】
- 【「ほっと一息カフェ」のお知らせ】
- 【同窓会広報誌No.71を発刊しました】
- 【同窓会広報誌 Leaf ご入会案内特別号を発刊しました】



Copyright (C) 2006 島根大学教育学部同窓会. All rights reserved.

TOPページへ

刊行物・冊子をご寄贈ください。

本同窓会誌では、毎号、「受贈図書紹介」として、寄贈いただいた図書を紹介しております。近年は、『友朋』（昭和三十六年卒小四課程第九期生同期生会誌…毎回掲載）、『風雲急にして―徴兵猶予解除から入隊まで―』（個人刊行物…同窓会誌六十四号掲載）、『島根の海の物語―三太と源爺さんとミケー』（個人刊行物…同六十五号掲載）、『思い出草』（個人刊行物…同六十九号掲載）、『人生に効く『葉根譚』（個人刊行物…同窓会誌七十二号掲載）等を掲載させていただきました。

このような有志会・同期生会で作成していらっしゃる「会誌」、また、個人で作成された刊行物・冊子等を、同窓会事務局にお送りいただければ、同窓会関係情報として紹介させていただきます。と思います。

皆様のご寄贈をお待ちしております。

会員の皆様に、できるだけ新鮮な情報を提供するように努力しています。母校の様子が気になりましたら、お気軽に「島根大学教育学部同窓会」でご検索ください。ご意見やご感想もメールにてお寄せいただけます。
<http://www.suaa2.shimane-u.ac.jp/edu/>

終身会員・個人会員

◆終身会員氏名

自 令和二年十二月
至 令和三年十二月

広島市	権藤 誠剛
松江市	佐々木 章友
高槻市	藤井(島田) 裕子
出雲市	金築(岡本) 弘子
松江市	梶谷(富岡) 朱美
出雲市	板倉 富士夫
出雲市	原 広治
西予市	宇都宮 久
松江市	浜崎(岡崎) 真理子
松江市	伊藤 和子
松江市	岩田(小川) 美登里
出雲市	松岡(古川) 裕二
名古屋	鰐部 良治
浜田市	石田(野々村) 頼子
福知山市	細谷 恵滋
出雲市	津戸 弘光
柏原市	大浪 貴代美
北相馬郡	高野 克也
出雲市	杉本 雅己
本人希望不掲載	磯本 宏幸
出雲市	井上 富美子

終身会員加入について

本同窓会では、ご退職等によって支部を離れられた皆様に終身会員となっていたくようお願いしています。一時金二〇、〇〇〇円を納入していただきますと終身会員として登録し、「同窓会誌」および「同窓会広報紙」を毎年お届けします。加入により、母校とのつながりがずっと続きます。

おおむね六十歳を迎えられた卒業期の皆様に、会員名簿に基づいて終身会員加入のご案内を差し上げていますが、連絡漏れがあるかもしれません。相互に誘い合わせて加入していただきますようお願い申し上げます。本誌末尾の郵便振替をお使いください。

詳細は同窓会事務局までお問い合わせください。

同期生会等への祝い金

同期生会等を開催された折には規定により祝い金をお送りしています。申請等の手続きについては、事務局までお問い合わせください。

個人会員の会費納入について

同窓会費(年額二、〇〇〇円)は原則として同窓会支部を通して集金させていただいていますが、県外居住であったり、教職以外の方の場合、支部との連絡が取れず未納となっている場合があります。その場合は個人会員として納入していただいています。年会費二、〇〇〇円を本誌末尾の郵便振替にて送金してください。

郵便振替口座

松江 〇一四四〇一五―六九七五
加入者名 島根大学教育学部同窓会

編集後記

新型コロナウイルス感染の収束が未だ見えない中、様々な困難を乗り越えて「島根大学教育学部同窓会設立70周年記念号」を送り出すことができるのはうれしいことです。

今回は、記念号の特集として「教育学部同窓会70年のあゆみ」と「70周年記念座談会」を掲載しております。前者は初代会長から現会長までに執り行った主な事業、業績など、年代を追って記述しております。また後者は、平成時代に入ってから今日まで同窓会を担ってこられた方々に「同窓会並びに同窓会誌70年の役割と今後の展望」と題して闊達に話をしていただきました。その際、感染対策としてマスク着用での話し合いとなり、ご不自由をおかけいたしました。それぞれが貴重な話を語られ、実りある座談会となりました。さらに、東京支部から「支部活動活性化の取組」としてご寄稿をいただき、それも特集として掲載しております。

その他、近年、教員採用を志す人が減る現象が起こっております。そういった中で、本校教育学部卒業生の進路状況はどのような状況になっているだろうか、とその人数とパーセンテージを提示しました。

もう一つ、令和二年度から学部において専攻の名称が変更になりました。「専攻だより」

の箇所に、旧専攻名と新専攻名を表示しております。

先人達が「島根大学教育学部同窓会誌」を七十年もの長きにわたって継続してこられ、その号数を重ねた会誌は、戦後から教育を支えた島根大学教育学部の歴史書ともなっています。折しも、この記念号を機に会誌の表紙を絵画からカラー写真へ、大きさをA5版からA4版へと変更いたしました。今後とも多くの方々に親しまれお読みいただければ幸いです。

最後に、ご多忙にもかかわらずご寄稿を頂戴した皆様方、編集にご協力いただいた皆さんに改めて心よりお礼申し上げます。

(小豆澤美博 記)

(編集委員)

小豆澤美博	安達 卓生	片山 博子
河井 克典	竹田 健二	岩田 英作
山根 繁樹		

事務局への連絡

- 〒690-8504 松江市西川津町1060
島根大学教育学部同窓会事務局
山田 幸子
(火・金曜日 午後 在室)
- 郵便振替口座 松江01440-5-6975
加入者 島根大学教育学部同窓会
用紙は郵便局のものを使用されても可
- 電話・ファックス 0852-32-6297
- E-mail e-dousoukai@edu.shimane-u.ac.jp

令和4年1月14日印刷
令和4年1月18日発行

【非売品】

編集兼発行者 有馬 毅一郎

発行所 島根大学教育学部同窓会
松江市西川津町1060
印刷所 (有)黒潮社
島根県松江市向島町182-3
電話 (0852)21-3409